

有病者口腔管理学特論

Advanced Course of Oral Management of Medically Compromized Patients

キーワード

- ① 全身性疾患に伴う口腔疾患
- ② ARONJ、抗血栓療法
- ③ 周術期口腔管理
- ④ がん患者の口腔管理
- ⑤ 終末期患者の口腔管理

授業概要

超高齢化社会を迎えた現在、多くの全身性疾患や治療薬を使用している患者が存在する。本講義では全身性疾患に伴う口腔疾患や使用薬剤による口腔内の合併症や併発症の口腔管理法について修得する。特に全身性疾患に伴う口腔疾患では自己免疫性水疱形成疾患、口腔カンジダ症、シェーグレン症候群、エイズ、GVHD患者の口腔管理法を学ぶ。使用薬剤による口腔内の合併症や併発症では抗血栓療法やMROMJ、薬剤性口腔乾燥症患者の口腔管理法について学ぶ。また、がん治療に伴う周術期口腔機能管理の意義、終末期患者の口腔管理法について修得し、口腔と全身との関係や関連医学との係りについても理解する。

授業科目の学修目標

有病者・高齢者の口腔管理の役割について学ぶ。また、全身性疾患に伴う口腔疾患や使用薬剤による口腔内の合併症や併発症の口腔管理法について修得する。

授業計画

- ① 全身性疾患に伴う口腔疾患 10コマ 岩渕博史
- ② ARONJ、抗血栓療法 4コマ 岩渕博史
- ③ 周術期口腔管理 5コマ 岩渕博史
- ④ がん患者の口腔管理 5コマ 岩渕博史
- ⑤ 終末期患者の口腔管理 6コマ 岩渕博史

教科書および参考書

口腔の緩和医療・緩和ケア 永末書店 京都 2013. がん緩和ケアガイドブック 青海者 東京 2010. 在宅医療辞典 中央法規 東京 2009.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

有病者の特徴や歯科治療上の注意、口腔管理の意義と手技についての概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 全身性疾患に伴う口腔疾患を理解できる。
- ② 骨吸収抑制薬や抗血栓薬使用中患者の合併症予防法や外科手技を理解する。
- ③ 周術期口腔管理を理解できる。
- ④ がん患者の口腔管理を理解できる。
- ⑤ 終末期患者の口腔管理を理解できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
20%	0%	50%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・口頭試問で各講義の理解度を判定する。1%×30回=30%
- ・レポートは、全身性疾患に伴う口腔疾患、ARONJ・抗血栓療法、周術期口腔管理、がん患者の口腔管理、終末期患者の口腔管理の5項目について課題を提出する。10%×5回=50%
- ・まとめ試験最終授業時に行う。20%

理想的な達成レベルの目安

全ての評価の総合で80%以上の達成を求める。